

R E P O R T 2

台風21号[10月1日—2日]

台風21号が首都圏を直撃 最大瞬間風速50m/s以上の 猛烈な風が東日本を襲う

10月1日夜に神奈川県川崎市付近に上陸した台風21号は、非常に速いスピードで列島を駆け抜けた。短時間に集中して降る大雨と猛烈な風が各地を襲い、最大瞬間風速50m/s以上の強風が鉄塔や樹木をなぎ倒した。千葉県では強風により、屋根が破損したり窓ガラスが割れるなどの家屋の被害が相次ぎ、負傷者が続出した。

銚子市で最大瞬間風速52.2m/sを観測

平成14(2002)年10月1日午後8時30分頃、本州の南海上を北上していた強い勢力の台風21号が、神奈川県川崎市付近に上陸した。台風は勢力を保ちながら非常に速いスピードで関東から東北を縦断。2日午前6時頃、北海道苫小牧市付近に再上陸して、日本海へと駆け抜けた。平成14年は台風6号、7号に続き、21号も関東を直撃。関東に3個の台風が直接上陸したのは、昭和26(1951)年以降初めてのことであった。

台風21号の発達した雨雲と秋雨前線の影響により、1日から2日にかけて、中部から北海道までの広い範囲で大雨となった。台風のスピードが速かったために、大雨は短時間に集中して降り、神奈川県箱根町では1日午後6時までの1時間降水量が80mmに達した。1日の日降水量は箱根町で342mm、静岡県天城湯ケ島町で263mmを記録するなど、多い所では200～300mmの雨量となった。この大雨で中部及び関東以北の直轄河川21水系50河川が警戒水位を超え、このうち狩野川は氾濫の恐れのある危険水位を超えた。

静岡県では、狩野川の支川流域で内水氾濫が発生。函南町で床上浸水57棟、床下浸水130棟となるなど、県内の浸水被害は合わせて床上浸水が164棟、床下浸水は593棟に上った。神奈川県では小田原市で河川の溢水などにより、床上浸水26棟、床下浸水295棟の浸水被害が発生した。埼玉県では荒川水系の小畔川が警戒水位を超え、過去最高となる4.19mを記録。同県では河川の越水や内水などにより床上浸水11棟、床下浸水226棟などの被害が

出ている。また、岩手県の釜石市では1日午後5時までの1時間降水量が31mmとなり、台風6号で被災した松原地区などで再び土砂災害の恐れが出たため、同地区など3地区336世帯790人に避難勧告が発令された。

台風21号は風も非常に強く、暴風域に巻き込まれた地域では、猛烈な風が吹き荒れた。静岡県では伊豆半島の石廊崎で1日午後6時に最大瞬間風速53.0m/sを記録。また、千葉県の銚子市では1日午後9時20分に52.2m/s、勝浦市で1日午後8時34分に50.5m/sを観測し、いずれも観測地点で史上最大となる最大瞬間風速を記録した。

この暴風により茨城県では1日午後9時30分頃、潮来市から神栖町までの約2.5km区間に立つ送電用の鉄塔が倒壊した。倒壊は最も高い鉄塔が折れたのに始まり、その鉄塔の送電線がほかの鉄塔を引っ張るなどして、次々と倒れていったとみられ、鉄塔9基(高さ94m～58m)がちぎれたり、折れ曲がったりして倒れていた。この頃、銚子市では記録的な風速が観測され、鉄塔に



小畔川近くを流れる大谷川の増水で道路が冠水(埼玉県坂戸市)[写真提供/国土交通省関東地方整備局]



設置された風力計も午後9時10分過ぎに風速56.7m/sを記録していた。倒壊現場は田園地帯だったため、人的被害はなく、家屋被害も住宅1棟の瓦屋根が一部損壊しただけで済んだが、倒壊により約17万6000世帯が停電となった。また、切れた送電線の一部が付近を通る水郷有料道路をまたいだために、同道路が翌2日午前7時過ぎまで通行止めとなるなどの被害が出ている。

このほか、台風21号の強風による茨城県内の家屋被害は、住宅の窓ガラスが割れるなど、半壊10棟、一部破損は682棟に上った。負傷者は、倒木処理中の負傷などで重傷2人、強風による転倒負傷などで軽傷14人となった。

千葉県でも1日夜、台風の通過に伴う暴風により、県内の広い範囲で屋根が吹き飛ばされたり窓ガラスが割れるなどの家屋の被害が多数発生した。特に県東部の地域で被害が大きく、小・中学校の校舎や体育館、



傘も壊れて差せないほどの猛烈な風が都心部を吹き荒れた(東京都千代田区)[写真提供/共同通信社]